

事例1

ニットのカーテン・室内装飾品の開発、製造および販売

～多彩な編み技術とインテリアセンスの融合による新しいニット商品の開発と新市場への展開～

○事業概要（新規性、市場性等）

- ・多彩な編み技術による質感、感触、色合いの多様性を生かした新感覚のニットカーテン・室内装飾品を開発し、製造販売する。
- ・多配色で編み込める特色ある機械とプログラミング技術を活用した新しいニット商品を開発することにより、今までなかった季節の変化やおしゃれな感覚を取り入れたニットカーテンや室内インテリア商品を展開し、住宅・インテリア業界など新しい市場の開拓を図る。
- ・創業以来60年ニット製造のノウハウやプログラミング技術により高度な提案型ニット製品を開発・製造販売してきたコア企業と、同じく創業以来60年手織り絨毯の製造により蓄積したデザインノウハウとインテリア業界へのネットワークを持つ事業者との連携により、新しいニット製品の事業化を図る。

連携体の構成

ニット製インテリア開発

コア企業：鈴治（株）

（山形県山辺町）

・ニット製のカーテン、室内装飾品の製造

デザイン開発

秋田公立美術工芸短期大学

教授 渡辺 有一（秋田県秋田市）

・新しいニット製品のデザイン開発

縫製加工

穂積繊維工業（株）

（山形県中山町）

・カーテン縫製、仕立て、インテリア市場開拓

事業化支援

山形県中小企業団体中央会

（山形県山形市）

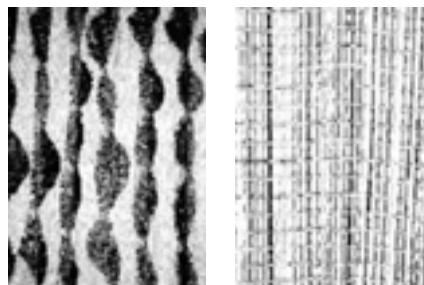
・事業化支援

支援予定メニュー

①補助金

②低利融資（中小公庫）

③設備投資減税



多彩な編み技術によるデザイン例

連携のきっかけ、特徴

- ・国内のニット産地は、輸入品の低価格攻勢に席巻され大きな打撃を受けている状況にある。当地域もその例に漏れないが、当社は昭和23年の創業以来積極的に設備投資を行い、また技術ノウハウの蓄積に努めており、業界内において一定の評価を得ている。しかし、ファッショニズムは季節商品であるため繁忙期・閑散期の格差が大きく、従来よりこの課題解決の必要性を痛感していた。
- ・連携参加者である穂積繊維工業（株）は昭和22年の創業以来、絨毯業界において麻糸・ウールなど自然素材を使ったハンドフック技法によるものづくりにおいて評価が高く、県工業技術センター及び県産業創造支援センターと共に開発した「穂波シリーズ」は（財）日本産業デザイン振興会主催の‘05グッドデザイン賞を受賞している。インテリア業界に精通し、デザインセンスを有するこの企業との出会いから、両社の強みを持ち寄った新商品の開発を構想し、高品質高付加価値の市場ニーズにマッチする今般のカーテン・室内装飾品の試作開発となつたものである。